【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【公開番号】特開2000-20342(P2000-20342A)
【公開日】平成12年1月21日(2000.1.21)
【出願番号】特願平11-155886
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　11/22　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　11/22　　３６０Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月24日(2006.5.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
データ処理ユニット（ＤＰＵ）遠隔診断用診断ユニットであって、該診断ユニットはネットワークを介して遠隔ＤＰＵに結合され、かつ前記ＤＰＵの内部バスに結合されるように適合されており、
前記ＤＰＵ内のデータ通信および／または前記ＤＰＵの外部デバイスとのデータ通信を監視し、かつ／または前記ＤＰＵを用いたテストを実施することにより、診断および／または監視を前記ＤＰＵから独立して制御する中央処理装置ＣＰＵを備えて成る診断ユニット。
【請求項２】
前記ＤＰＵの前記ＣＰＵと内部バスとに結合され、前記ＤＰＵ内のデータ通信および／または前記ＤＰＵと外部デバイスとのデータ通信を受動的に監視する実行ユニットを、さらに備えて成ることを特徴とする、請求項１に記載の診断ユニット。
【請求項３】
前記実行ユニットが前記内部バス上のデータ、データ・ストリーム、および／またはイベントを測定し解析する手段を提供することを特徴とする、請求項２に記載の診断ユニット。
【請求項４】
前記ＤＰＵの前記ＣＰＵと前記内部バスとに結合され、前記ＤＰＵを用いたテストを能動的に実施する解析ユニットを、さらに備えて成ることを特徴とする、請求項１から３の何れかに記載の診断ユニット。
【請求項５】
前記解析ユニットが、前記ＤＰＵに刺激信号を送出し、かつ／または前記ＤＰＵからの特定タスク、データ、および／またはオペレーションを要求する手段を提供することを特徴とする、請求項４に記載の診断ユニット。
【請求項６】
前記ＤＰＵの電源から独立した電源ユニットをさらに備えて成ることを特徴とする、請求項１から５の何れかに記載の診断ユニット。
【請求項７】
前記診断ユニットが前記ＤＰＵに差込んで接続されるプラグイン・カードとして提供されることを特徴とする、請求項１から６の何れかに記載の診断ユニット。

【請求項８】
前記ＤＰＵの機能状態から独立して前記ＤＰＵの診断および／または監視を可能にすることを特徴とする、データ処理ユニットＤＰＵの遠隔診断用診断ユニット。
【請求項９】
データ処理ユニットＤＰＵの遠隔診断を提供する方法であって、
（ａ）診断ユニットを前記ＤＰＵの内部バスに結合するステップと、
（ｂ）前記ＤＰＵ内のデータ通信および／または前記ＤＰＵと外部デバイスとのデータ通信を監視し、かつ／または前記ＤＰＵを用いたテストを実施するステップと、
（ｃ）ネットワークを介して遠隔ＤＰＵに前記診断ユニットを結合するステップと、
（ｄ）前記遠隔ＤＰＵに対し、前記ＤＰＵの機能状態を示す信号を供給するステップと、
を備えて成る方法。